

E 29 農業家族の周期段階の移行に伴う就業構造の変化，石川県根上町の場合
戸板女子短大 久保桂子

目的 農業就業人口の高齢化，農家人口の他産業への流出傾向は近年かなり指摘されてきた。この就業構造の変化は，個々の農家では家族周期段階の移行を契機として起こる場合が多いことが予想される。本研究は，直系家族制の3つの周期段階を各家族核の8つの周期段階により，7山区分し，最近約10年間の周期段階の移行に伴う農家の就業構造の変化を分析する。

方法 石川県根上町中の庄地区の全農家世帯19戸，吉原地区21戸の計40戸（他に離農世帯22戸）に対し，訪問面接聴取調査を実施。調査時期は1982年10月8日～11日。

結果 ①〔父の死亡〕〔母の死亡〕は農業就業者数の減少をもたらす。その減少分についての労働力の補充は充分行われず，経営規模が縮小される。②〔アトトリの学校卒業〕は，他産業就業者数の増加につながり，農業就業者数は増加しない。経営規模の大きな農業世帯のアトトリほど高学歴で，安定的な恒常的勤務に就いている。③〔アトトリまたは世帯主の婚姻（配偶者の婚入）〕は，アトトリの学卒同様他産業就業者の増加をもたらす。この10年間の婚入者15人中家事専従者は1人のみであり，他は全て他産業就業者となっている。④〔アトトリまたはアトトリの子の出生〕は，女子が育児のために就業を中断する契機となりうるが，当地区の子は全て就業を継続しており，家族の就業者数は減少していない。

過去10年間に於いて，当地区では周期段階の移行という理由以外では就業構造に大きな変化はみられず，低成長期にも周期の移行は確実に農家人口を他産業へ流出させている。